

2025 年 12 月 2 日 全 9 頁

消費データブック（2025/12/2 号）

個社データ・業界統計・JCB 消費 NOW から消費動向を先取り

経済調査部 エコノミスト 菊池 慈陽

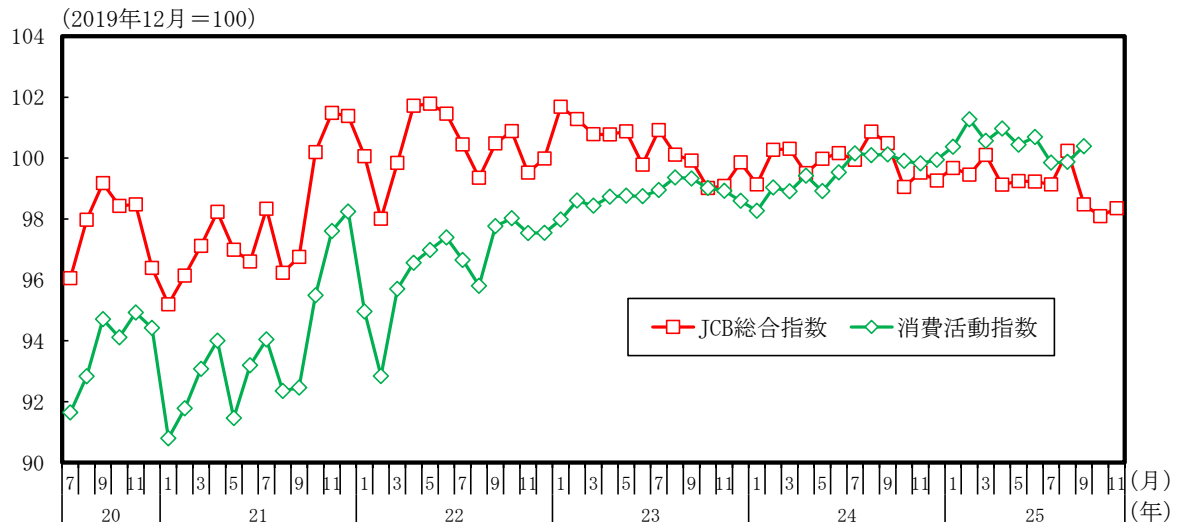
[要約]

- 2025 年 10 月の消費は 9 月から小幅に増加した。財消費は小幅に増加した。スーパーやコンビニの販売額や、家電大型専門店の販売額（大和総研による季節調整値）などが増加した。サービス消費も小幅に増加した。宿泊者数は前年比でプラスに転じた。新幹線や旅客機の輸送量は堅調に推移している。
- 11 月の消費は 10 月から小幅に減少したとみている。財消費は小幅に減少した。新車販売台数（大和総研による季節調整値）や、11 月前半の実績をもとに試算した家電の JCB 消費額（同）が前月から減少した。サービス消費は概ね横ばいで推移した。宿泊や外食の JCB 消費額（同）は堅調に推移した。他方、大阪・関西万博が終了した影響で、一部新幹線の輸送量は前年比伸び率が前月から縮小した。

＜消費全体の動き＞

- ◆【JCB 総合指数】25 年 11 月の JCB 総合指数¹（月前半の実績に基づいた大和総研による試算の季節調整値、JCB データは以下同）によると、実質消費額は財が前月比 +0.0%、サービスは同▲0.1%といずれも概ね横ばいで推移した。

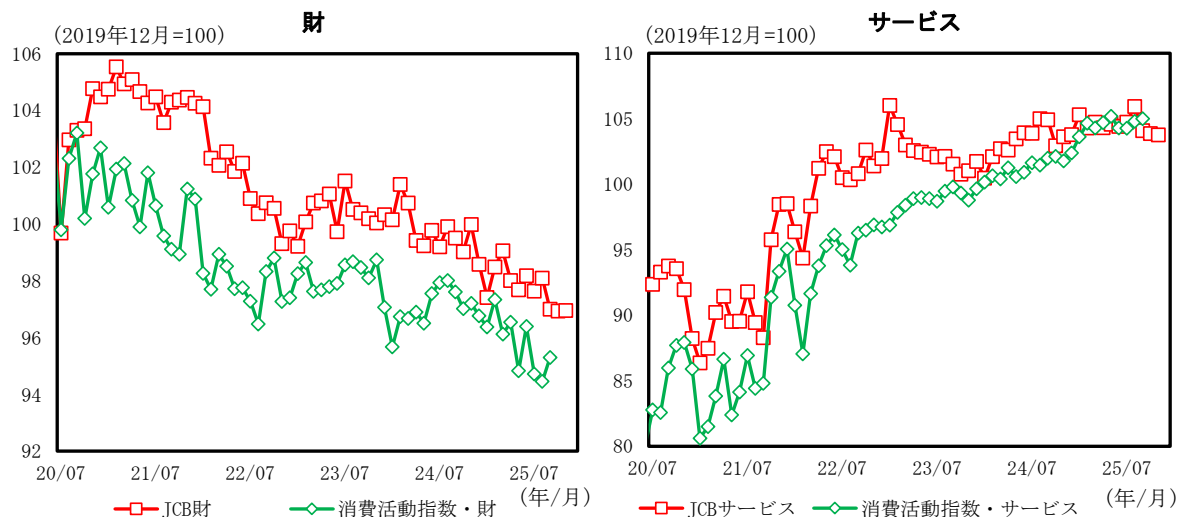
図表 1：消費活動指数・JCB 総合指数



(注) JCB 総合指数は大和総研による季節調整値。CPI で実質化。25 年 11 月分は月前半のデータをもとに伸び率を試算（物価上昇分を調整）。

(出所) 日本銀行、総務省、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB 消費 NOW」より大和総研作成

図表 2：財・サービス別に見た消費の動き



(注 1) JCB 財指数・JCB サービス指数は大和総研による季節調整値。それぞれ対応する CPI で実質化。25 年 11 月分は月前半のデータをもとに伸び率を試算（物価上昇分を調整）。

(注 2) 財の消費活動指数は、当該指数の耐久財・非耐久財を形態別ウエイトで加重平均したもの。

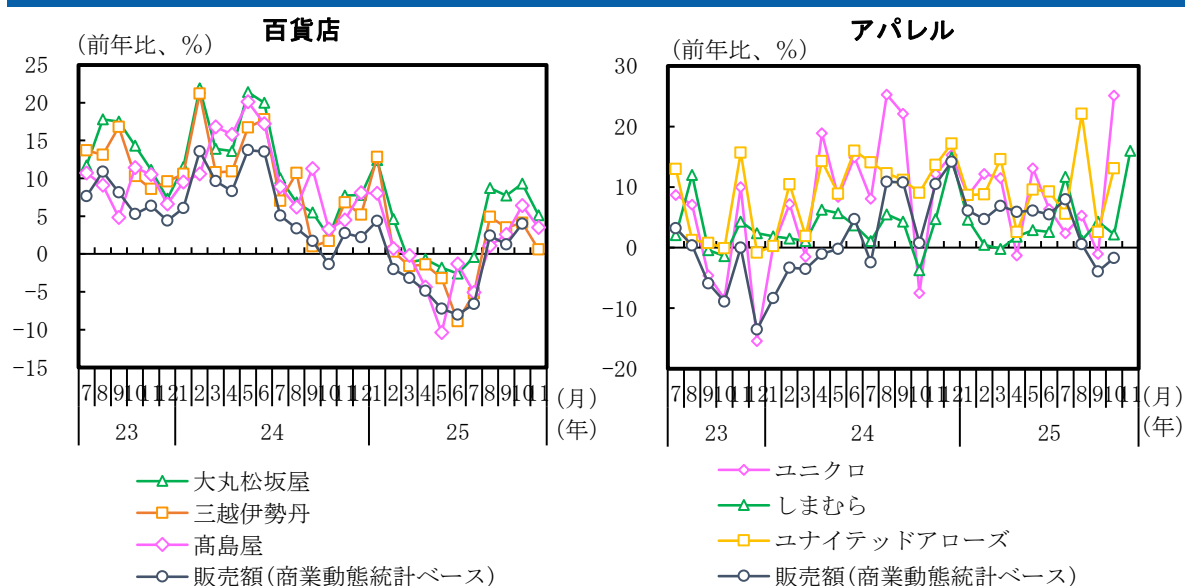
(出所) 日本銀行、総務省、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB 消費 NOW」より大和総研作成

¹ JCB グループ会員の中からランダムに抽出された約 1,000 万会員を対象に、ナウキャスト社が作成・公表している消費指数。

＜小売関係＞

- ◆【百貨店】 25 年 10 月の百貨店商品販売額（商業動態統計ベース）は前年比+4.0%だった。3 カ月連続の増加で、プラス幅は前月から拡大した。業界統計から内訳を見ると、雑貨（同+10.6%）、衣料品（同+3.0%）、身のまわり品（同+2.3%）や食料品（同+2.1%）など幅広い項目が増加した。
- 25 年 11 月の大手百貨店の既存店売上高は、大丸松坂屋が前年比+5.1%、高島屋が同+3.5%、三越伊勢丹が同+0.6%だった。3 社いずれも 4 カ月連続で前年を上回ったが、プラス幅は前月から縮小した。ただし、11 月 14 日に中国政府が日本への渡航自粛を要請したことで、一部でインバウンド消費が下振れした影響が表れた可能性がある。国内顧客に限って見ると売上は堅調に推移しているとみられ、気温の低下に伴い冬物衣料などの販売が好調だった。
- ◆【アパレル】 25 年 10 月のアパレル販売額（商業動態統計ベース）は前年比▲1.7%と、2 カ月連続で減少した。ただし、マイナス幅は前月から縮小した。残暑により秋冬物商品の需要が例年より後倒しされていたが、気温の低下に伴い徐々に売上を伸ばしたとみられる。
- 25 年 11 月のアパレル大手しまむらの既存店売上高は、前年比+16.0%と 8 カ月連続で増加した。増加幅は前月から大きく拡大した。気温の低下に伴い、アウター類やインナー類などの冬物の商品の販売が好調だった。

図表 3：百貨店・アパレルの販売額



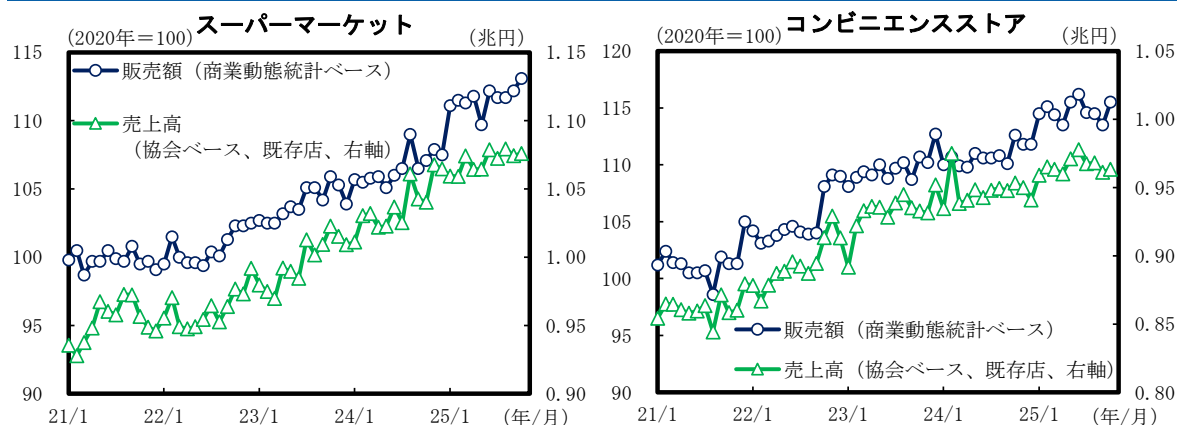
(注 1) 百貨店は既存店ベース。三越伊勢丹の 25 年 8 月は、24 年とのイベント時期のずれによる影響を除いた実態の前年比。

(注 2) アパレルは既存店ベース（含むネット通販）。しまむらの各月の数値は前月 21 日から当月 20 日の集計値。アパレル販売額（商業動態統計ベース）は、商業動態統計の「繊維・衣服・身の回り品小売業」を参照。サンプル替えの影響を除いている。

(出所) 経済産業省統計、各社資料より大和総研作成

- ◆【スーパーマーケット】25 年 10 月の販売額は前月比+0.8%（経済産業省による季節調整値）。飲食料品（同+0.9%）などが増加した。
- ◆【コンビニエンスストア】25 年 10 月の販売額は前月比+1.8%（経済産業省による季節調整値）。4 カ月ぶりに増加した。ファーストフード及び日配食品（同▲0.2%）や加工食品（同▲1.0%）は減少した一方、非食品（同+10.1%）は大きく増加した。

図表 4：スーパーマーケット・コンビニエンスストアの売上高

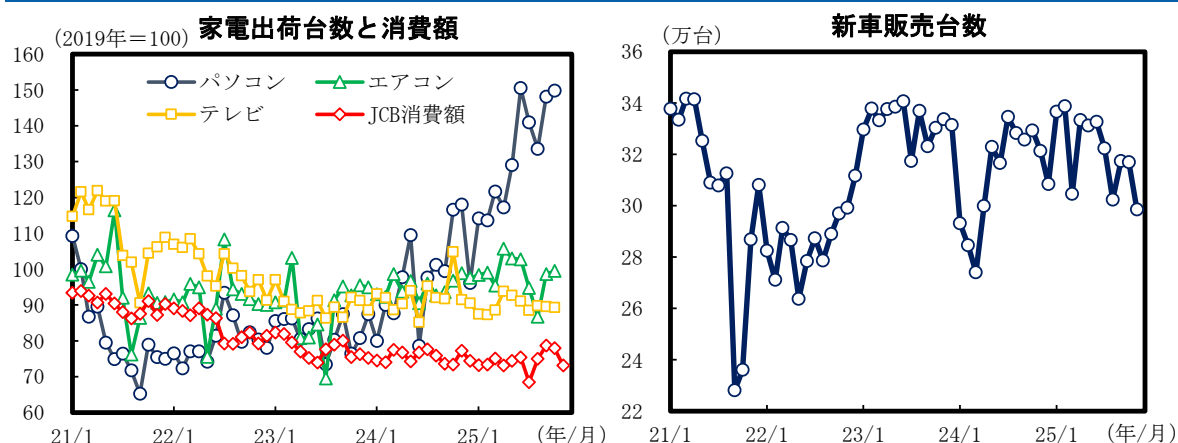


(注) 商業動態統計ベースの販売額は経済産業省による季節調整値。協会ベースの売上高は大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省、全国スーパーマーケット協会、日本フランチャイズチェーン協会より大和総研作成

- ◆【家電】25年10月の家電大型専門店の販売額（商業動態統計ベース、大和総研による季節調整値）は、前月比+2.2%と2カ月ぶりに増加した。出荷台数（大和総研による季節調整値）で品目別に見ると、パソコンは同+1.1%と2カ月連続で増加した。25年10月のWindows10サポート終了を受けて買い替え需要が高まっており、このところ高水準で推移している。エアコン（同+0.9%）も2カ月連続で増加した。他方、テレビ（同▲0.2%）は小幅ながら2カ月連続で減少した。
25年11月のJCB消費額（機械器具小売業）は前月比▲6.2%と、2カ月連続で減少した²。
- ◆【自動車】25年10月の新車販売台数（大和総研による季節調整値）は、前月比▲0.1%とほぼ横ばいだった。
25年11月は前月比▲5.8%と大きく減少した。小型乗用車、普通乗用車、軽四輪乗用車がいずれも減少した。半導体不足による一部メーカーでの減産の影響が表れた。

図表5：家電出荷台数と新車販売台数



(注) 大和総研による季節調整値。JCB消費額はJCB「機械器具小売業」。25年11月分は月前半のデータをもとに伸び率を試算（物価上昇分を調整）。

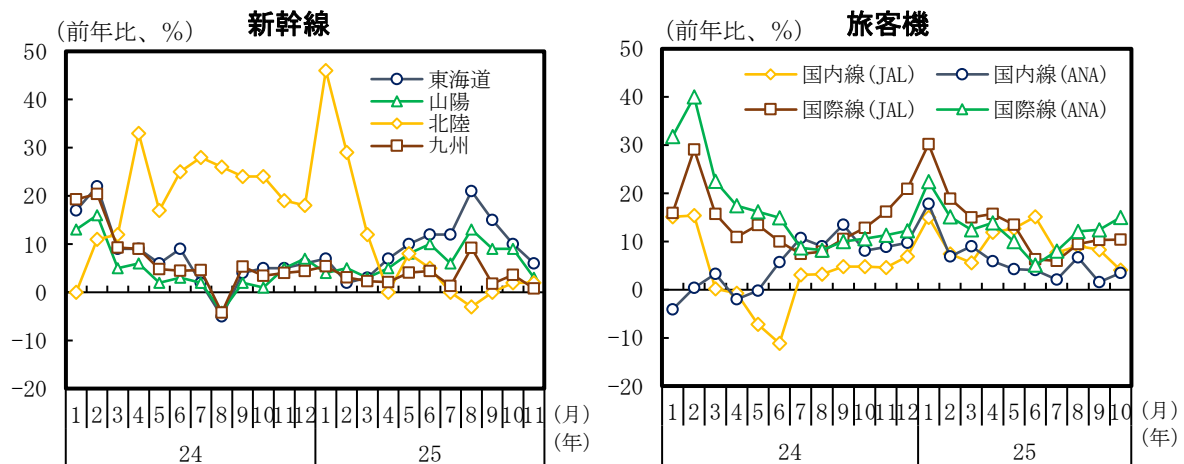
(出所) 電子情報技術産業協会、日本冷凍空調工業会、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会統計、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB消費NOW」より大和総研作成

² ただし、ブラックフライデーなどのセールの影響で月の前半よりも後半の方が販売が好調だったとみられ、実際は前月比▲6.2%（月前半の実績値に基づいた大和総研による試算値）よりも上振れする可能性がある。

＜サービス関係＞

- ◆【新幹線】25 年 10 月の輸送量は、東海道新幹線が前年比+10%、山陽新幹線が同+9%だった。10 月 13 日まで開催された大阪・関西万博の効果もあって需要が堅調に推移したとみられる。北陸新幹線も同+2%、九州新幹線は同+4%だった。
- 25 年 11 月は、東海道新幹線が前年比+6%、山陽新幹線が同+3%だった。大阪・関西万博が終了した影響で伸び率は前月から縮小したが、前年比プラスを維持しており堅調に推移したとみられる。北陸新幹線は同+2%、九州新幹線は同+1%だった。連休が多い秋の観光需要に応えるため、JR 各社は 10、11 月を中心に新幹線を含む臨時便を運行しており³、輸送量の押し上げ要因となっている。
- ◆【旅客機】25 年 10 月の国内線輸送量（含むグループ会社）は、ANA が前年比+3.5%、JAL が同+4.1%だった。国際線輸送量（同）は、ANA が同+15.0%で 4 カ月連続の増加、JAL が同+10.4%で 3 カ月連続の増加だった。国内線、国際線ともに、24 年中頃以降は前年比でプラスを維持し、堅調に推移している。

図表 6：新幹線・旅客機の利用状況



(注 1) 25 年 11 月の東海道は 25 日、山陽・北陸は 7 日、九州は 25 日まで。JAL・ANA のデータはグループ会社を含む。

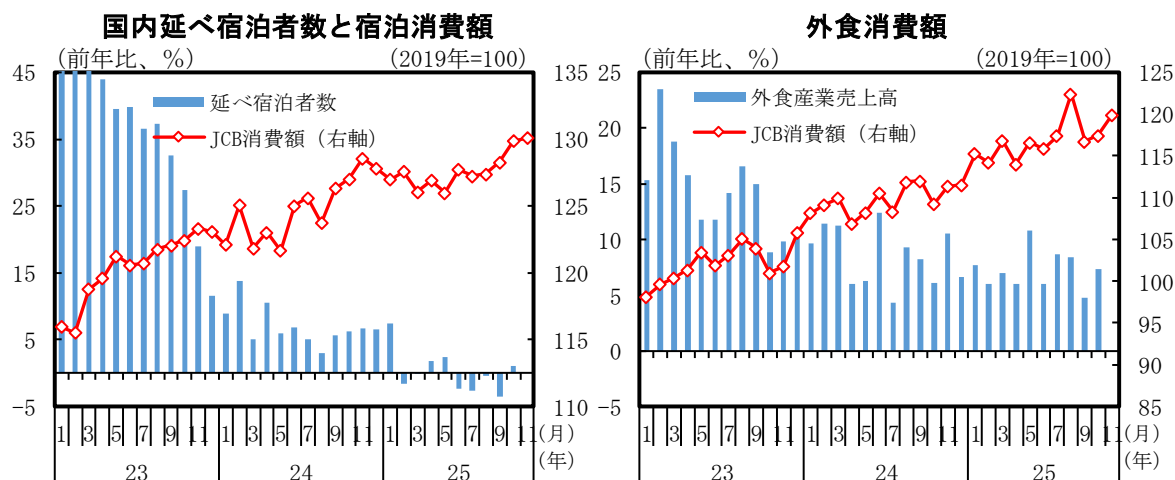
(注 2) 北陸は上越妙高～糸魚川間の輸送量。

(出所) JR 東海、JR 西日本、JR 九州、JAL、ANA 資料より大和総研作成

³ JR 東日本「[秋の臨時列車の運転について](#)」（2025 年 8 月 22 日）、JR 東海「[“秋”の臨時列車のお知らせ](#)」（2025 年 8 月 22 日）、JR 西日本「[2025 年【秋】の臨時列車の運転について](#)」【2025 年 10 月 1 日（水）～2025 年 11 月 30 日（日）：61 日間】」（2025 年 8 月 22 日）など参照。

- ◆【宿泊】 25 年 10 月の宿泊者数（観光庁、宿泊日数ベース）は前年比+1.1%と、5 カ月ぶりに増加した。24 年までは増加基調にあったが、25 年に入ってから概ね横ばいで推移している。
25 年 11 月の JCB 宿泊消費額は、前月比+0.2%と小幅ながら 4 カ月連続で増加。
- ◆【外食】 25 年 10 月の外食産業の売上高は前年比+7.3%だった。増加幅は前月から拡大した。21 年 12 月以降前年比プラスが続いており、堅調に推移している。
25 年 11 月の JCB 外食消費額は前月比+2.1%と、2 カ月連続で増加した。

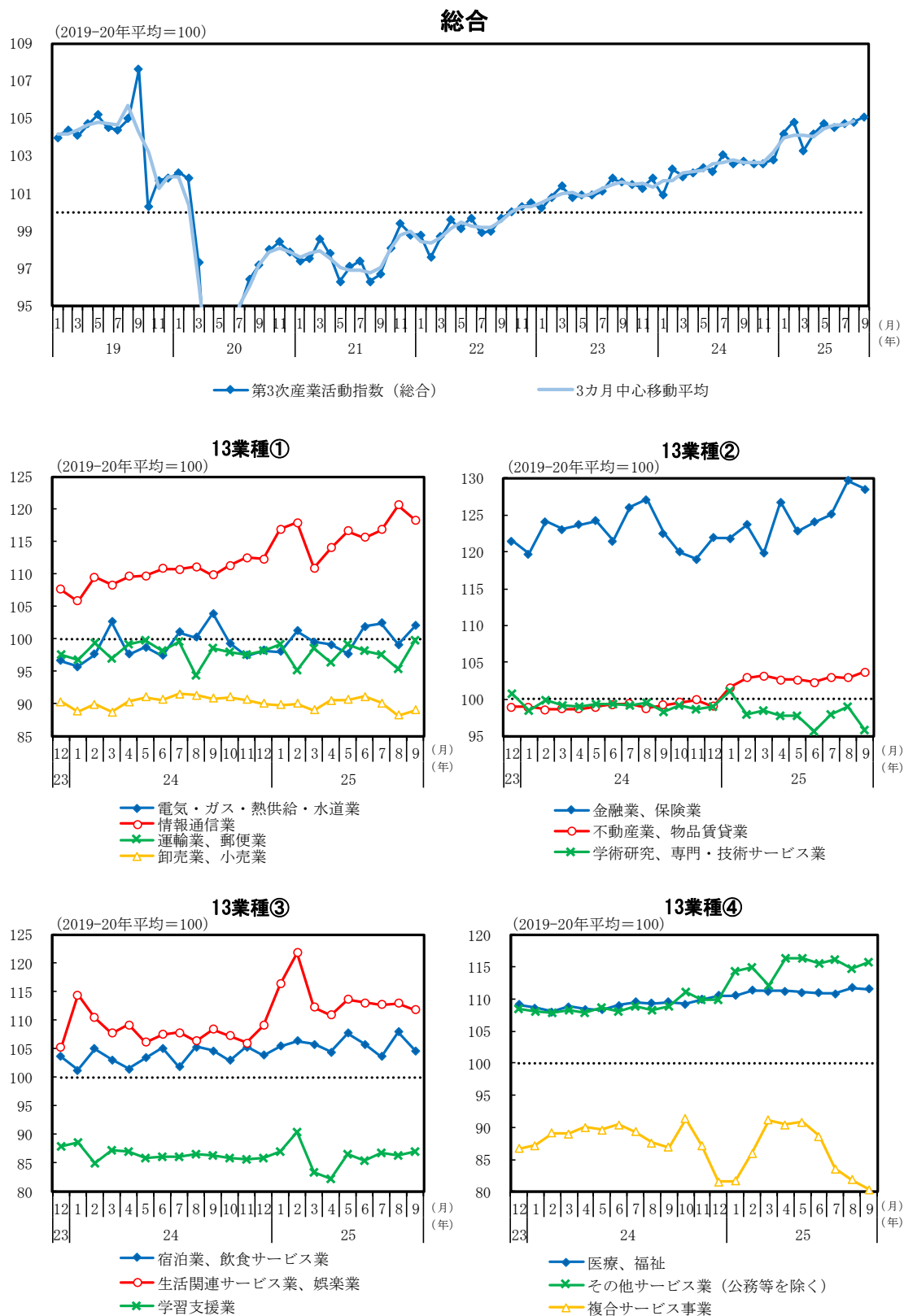
図表 7：国内延べ宿泊者数と宿泊消費額（左）、外食消費額（右）



(注) 大和総研による季節調整値。25 年 11 月分の JCB 消費額は月前半のデータをもとに伸び率を試算。観光庁統計は宿泊日数ベースのデータを用いている。延べ宿泊者数と外食産業売上高の最新値は 25 年 10 月。
(出所) 観光庁、一般社団法人日本フードサービス協会統計、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB 消費 NOW」より大和総研作成

<参考：第3次産業活動指数>

図表8：第3次産業活動指数

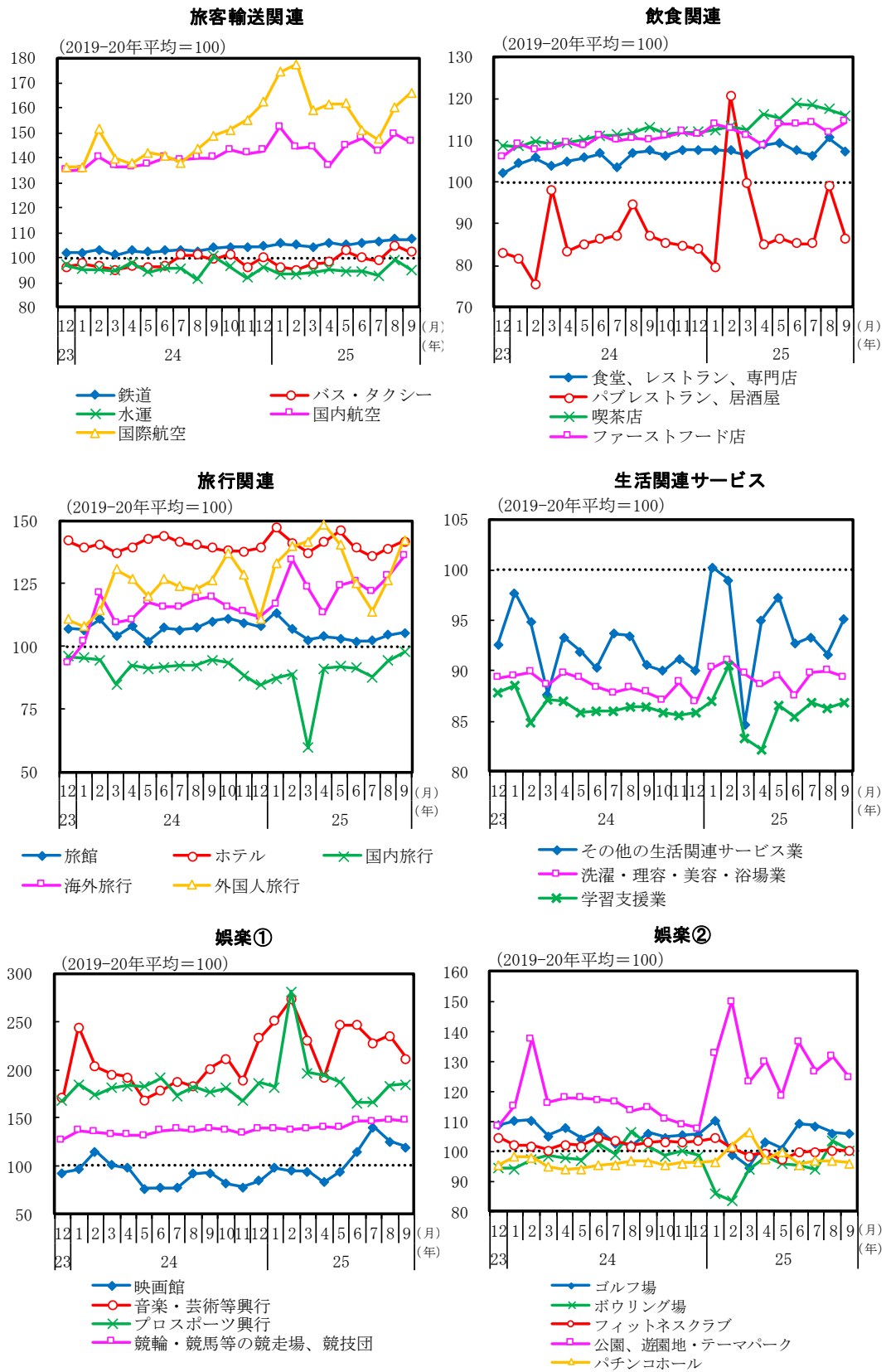


(注1) 2020年基準、季節調整値。

(注2) 13業種は、第3次産業活動指数の対象となっている日本標準産業分類の大分類13項目。

(出所) 経済産業省より大和総研作成

図表9：運輸業・生活関連サービス業などにおける第3次産業活動指数の推移



(注1) 2020年基準、季節調整値。

(注2) 生活関連サービスの「その他生活関連サービス業」は、冠婚葬祭業や写真業など。

(出所) 経済産業省より大和総研作成